

守山市民ホール大規模改修工事設計等業務 公募型プロポーザル 審査講評

1. 各提案に対する評価の概要

守山市民ホール大規模改修に係るプロポーザル審査委員会（以下「本委員会」と略）は、第1次審査において、応募者4者の提出書類を守山市民ホール大規模改修工事設計等業務公募型プロポーザル実施要項別添資料5「評価基準」（以下「評価基準」と略）に沿って、審査を行い、各応募案に関する詳細な議論を経た後、各委員による評価点と実績等による加点を総合し、全会一致により応募者4者すべてを第1次審査通過者とした。次に、第2次審査では、第1次審査を通過した4者から提出された技術提案書、公開プレゼンテーションおよびヒアリングの内容を踏まえ、評価基準に沿って審査を行い、慎重かつ熟慮を重ねた審議の結果、1次審査の点数を含めた総合点が最も高い日建設計・日建設計CM共同企業体を優秀者として選定した。本委員会における各委員の評価や意見を抽出・整理し、その概要を以下に記す。

(1) 優秀者（契約予定者）の評価概要等

受付番号3番：日建設計・日建設計CM共同企業体

屋内化した中庭を包み込む大屋根は、未来への懸け橋となるよう象徴的なアーチ形状とし、新たな輪（わ）が文化的シンボルとなる提案である。

基本計画の内容を深く理解し、諸条件を丁寧に検証され、調査・計画・デザイン・コストまで具体的に最もよく練られた案となっている。また、屋外広場から、ピロティ空間（大ホールホワイエ前の軒下庇の拡張空間）、市民ロビーから屋内広場、そして各諸室へ3段階の繋がりを持たせ、建物内外の一体性や動線の一体性により、開かれた「まちの広場」を実現している。

サブエントランスの拡張も、現況の利用状況を踏まえた提案であり、来館者の動線がよく検討され、敷地のランドスケープも含め、周辺環境との関係性が評価できる。

特定天井においても独自の提案がなされ、今後の物価上昇を想定した提案をする等、先を見据えた具体的な提案があり、コストマネジメントの観点からも信頼度が高い。

全体として高い技術力に裏付けられ、コスト面の検討についても評価が高いなど、案の実現性が高く、様々な観点で行き届き、総合的にすぐれた提案であったため、守山市民ホールにふさわしい最適な設計者と評価された。

なお、小ホールの客席の固定化など基本計画からの変更点や、新たな文化拠点として、その存在意義と価値を高める外観イメージについて、今後、設計段階においてさらに検討されんことを期待する。

(2) 次点者等の評価概要等

受付番号 2 番：株式会社環境デザイン研究所

エントランス広場およびブックカフェに勾配屋根を増築し、市民交流ゾーンやイベント広場と連携した賑わいを創出する提案である。また、中庭を「市民広場」とし、「だんだん広場」を設け、日常的な居場所をつくることが提案されている。

音響的な根拠に基づいた大ホールのプロセニウム高さ確保の提案は、大ホールの魅力を向上させ、小ホールは響きの良い多機能ホールへ再生させている。また、多種の市民ワークショップを提案し、利用者意見の反映に工夫がある点も評価できる。

一方、だんだん広場を有する「市民広場」の提案について、図書館の実現性に懸念が残ることや、人々の居場所という意味でもっと他の方法があるのではないかという疑問が残る点、大ホールや小ホールと中庭広場との一体性にやや欠ける点、また全体として建設コストが収まるか等の懸念点も上げられ、優秀者の提案には僅かに及ばなかった。

(3) その他提案者の評価概要等（受付番号順）

ア 受付番号 1 番：株式会社 AS

「既存の外装に半透明の日除スクリーンを重ねることで、中の活動が滲み出る」とするチャレンジングで個性的な案である。また、「ウェルカムストリート」から吹き抜け広場へ「施設内に街との連続性を生む東西軸と南北軸をとらすことで、まちへとひらく」提案も特徴的であった。さらに、提案の中で、変える部分と変えない部分をはっきり明言していた点なども評価対象であった。

一方で、周辺とのつながりや駐車場からの来館者動線に対する考え方、スクリーンにやや頼りすぎている点、市民交流拠点としての 3rd、4th プレイスは、運営に頼るところが大きいため、その実現性が不確かな点、また建設コストが収まるか等の懸念点があり、総合的に優秀者および次点者に及ばなかった。

イ 受付番号 4 番：株式会社小堀哲夫建築設計事務所

多様でオープンな居場所と回遊動線が施設全体を立体的につなぎ、「いつも新鮮な出来事であふれるモードチェンジする中庭広場」が提案された。また、現在の市民ホールの課題である利用者動線が改善され、市民に寄り添い、新しい公共性のイメージを守山市に与えていくものであるとの評価であった。

大ホールはプロセニアムの高さを確保し、音響性、視覚性において観客の印象を大きく変えると共に、特定天井対策においては客席前方と後方で異なる方式を提案する等、コストを意識しており評価できる。また、小ホールはシューボックス型にし、音楽、ダンス、演劇等市民発表からプロの公演まで広く使ってもらえる様に工夫された点が評価された。

一方で、運営につながるワークショップ等の提案が弱く、ヒアリングの回答等も明確であり、建築的な評価はされたものの、総合的に優秀者および次点者に及ばなかった。

2 審査委員会の総評

本事業の趣旨に共鳴する4者から非常に優れた提案が寄せられましたこと、まずは提案者の皆様に深く敬意を表すとともに、心より感謝致します。

各提案者からの提案は、守山市における今後の市民ホールのあり方や改修後の周辺環境とのつながりについて、鋭い視点から問題提起されており、改修によって新たな市民ホールとして生まれ変わるための、貴重な示唆を得ることができました。また、いずれの提案も熟考されており、甲乙つけがたい秀逸な提案でありました。

本委員会においては、各委員がさまざまな専門的な観点から審議を重ね、優秀者を本事業者の設計者として最適なものとして評価しましたが、優秀者の提案内容においても、再度、課題を整理することで、より良い計画案に練り上げられるものと確信しています。

令和7年7月15日

守山市民ホール大規模改修に係るプロポーザル審査委員会
委員長 平 尾 和 洋